



一瞬、15年前にタイムスリップしました。牛の表情を見ていると、15年前に酪農実習で1年半滞在した土幌に戻ってきたような錯覚におちいります。土幌に来たきっかけは、東京の実家にいる時に見たアルバイト雑誌。「大自然の中でんびり暮らしませんか？」のキャッチフレーズを見て、すぐに電話したのを覚えています。

ドラマ「北の国から」のイメージと広大な大草原が広がる十勝平野での生活を楽しみにやってきましたが、実際は、朝から晩まで、休日もほとんどないかなりの重労働。描いていたイメージの中にはなかった「牛舎の掃除」などに最初はとまどいました。私が滞在した間にこの個人の酪農家だけでも30名ぐらいの私と同じような実習生が来ましたが、早い人で翌日、だいたい1～2ヵ月で牧場を去っていきました。理想と現実のギャップは、このような結果を作っていました。

今考えれば、この現実が当たり前。観光でくるのではなく、労働しに来るのだから、もう少し認識を変えないとダメですね。でも、ほんと多いのです。私みたいにこのこやって来る人って。

今回おじゃましたのは、幾千世の酪農家「坂口福司さん」。坂口さん、奥さん、おじい

ちゃん、おばあちゃん、そして3人の小学生の子供たちが手伝っている「搾乳」を見学させていただきました。

「仕事を手伝わないと、飯食わせねーぞ！」と子供たちに言う坂口さん。働いているからこそ、飯が食えるということ、仕事を手伝うことの意味を子供たちに伝えていることが凄い！と正直思いました。

毎晩と土日は朝も手伝っている搾乳と牛への餌やりを見させてもらったけど、子供たちの手順の良さ、そして、おとうさん、おかあさんに言われなくても次々に仕事をこなす手早さには、驚きの連続でした。

「それぞれの担当が決まっているんです。」というおかあさんとおとうさんの二人の背中を見て育ち、それを温かく見守っているおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らす子供たちは、幸せだな～と感じました。

「協働」という言葉があります。最近この広報でも良く聞く言葉です。

「協力して働く」という意味で、行政と住民が協力して町づくりを行っていかう！ということだけど、この言葉を私は坂口さんの一家に垣間見た気がします。

「仕事を手伝うことの意味」「協力する意味」。個人があって、家族があって、地域があり、町があり、道があり、国がある。従来の上からの逆方向のトップダウンでは、どうも無理があり、歪みが多くできあがってしまった現代社会。まずは身近なところから、できるところから始めたい！

「家族」や「地域」といった少し小さな単位での「協働」ができないのなら、その上の単位に進めるはずがない。そんなことを今回は教えてもらった気がします。職種によっては、子供や家族と一緒に難しい場合も多々あります。だから、坂口さん一家がホントうらやましい！

めちゃくちゃカッコ良かった「人、顔、仕事」でした。



カッコイイ

人・顔・仕事!

おうみ まさたか  
近江 正隆

1970年東京都生まれ。19歳で来道。土幌町で酪農などを体験後、1991年浦幌町に移住。現在漁業に従事する傍ら、水産加工品などを販売するネットショップ「旬の逸品やさん」を運営している。

**旧吉野小学校の施設整備は理解できません**

**改修は必要最低限とし、吉野生活館を廃止します**

吉野地区には古いながら地域会館と公民館が有ります。なぜ、そんなに建物が必要なのでしょう？十勝太コミュニティセンター・旧新養老小学校を利用した施設・吉野公民館と、近隣に3か所も立派な施設があるのに、まだ足りないのでしょうか？町長さんが日頃からおっしゃっておられるところの「浦幌丸が沈没寸前！」との危機感のこもった言葉と相反するものと思えますが如何なものでしょうか？

浦幌には立派な建物がいっぱい有りますが、農村環境改善センターを財政事情から閉鎖した今、再利用とは言いながら、新たに旧吉野小学校を修繕し、整備することの意味が理解できません。

町長さん・助役さんからは、町の財政が今後5年間は特に厳しく施設の閉鎖・公共料金の値上げ・各種団体への助成の縮小廃止・職

員給与削減と、可能な限りの節約をして乗り切るとの説明だったと記憶しています。

そのような余裕があるならば、公共料金の値上げを思いとどまる方向で検討して頂いた方が、全町民のためであって、浦幌町全体のためになると思います。

吉野小学校をコミセンにする必要性は、全くないと考えます。どんな目的で使用するのでしょつか？その分の費用で、図書館の本を購入するとか、今使われている学校の修繕をするとか、もっと子どもたちのためにお金を使ってください。

吉野小学校閉校に伴う校舎等の使用についての経過を説明します。まず、校下より閉校に伴い、吉野地区コミュニティセンターの建設要望がありました。町は現在の厳しい財政状況の中では、建設できない旨お答えしてきました。校下からは、建設ができないのであれば、代わりに校舎等を使用させてほしいとの要望がありました。

町としては、校舎の使用に当たり吉野生活館の廃止を予定していること。校舎の年数がかなり経過し、解体処理するにしても多

**第3セクターの中身はどうなっているの？**

**黒字も当期利益を計上しています**

額の費用が必要となること。から校舎等を一部改修し、活用することを協議しています。

改修にあたっては、必要最小限の改修しか考えていませんのでご理解願います。また、今後、旧校舎・公民館のあり方等について検討していきます。（総務課管財係）

第3セクターの中身はどうなっているのでしょうか。留真温泉の存続の見通しはあるのでしょうか。

町の第3セクターは、現在、浦幌乳業(株)と、(株)ユーエムの2社があります。

浦幌乳業は、主要な事業内容として、乳製品の製造及び販売を行い、従業員数は(3月31日現在)25名で、町と農協が、株の共同出資をしています。15年度は、年間処理目標の5万トン達成し、売上約45億円で前年比113.7%の増収となり、経常利益は約3千

万円、当期利益は約410万円でした。今後は、年間処理目標を6万トンに増量し、乳製品拡大生産を主眼に経営改善をしていく予定です。

次に、(株)ユーエムですが、主要な事業内容は、ギョウジャニンニクを原料とした製品の製造販売及び地元生産品の販売。町の受託事業(一般廃棄物処理センターなど)。浦幌留真温泉事業となっています。販売事業は、売上高約3千500万円、当期利益約400万円。受託事業は、当期利益約680万円。留真温泉事業は、約1千500万円の売上げがありましたが、経費が上回り約300万円の当期損失となりました。ユーエム全体としての当期利益は、約800万円でした。

昨年は、2万人弱の方に日帰り浴でご利用いただきました。宿泊は前年比、約300人減となりましたが、源泉の飲料許可を取得後は増加傾向にあります。

温泉のブランド化を第一的とし、温泉周辺の整備を実施し、多くのお客様にお越しいただける環境をつくっていきます。当分の間は、ユーエムへ受託し継続していきます。

(産業課商工労働観光係)